



熊本市の中心商店街の雑沓にもまれながら、外来者は例外なく素晴らしい商店街だと嘆声をあげる。広大なオーニングが、まず度肝を抜くためであろう。最近では、どの商店街もりっぱになり、規模も高度化して、たがいに妍(けん)をきそうかのようである。

### 商業政策にもポリシーミックスを

樋口 欣

しかし、果して商店街の良否は何で決められるのであろうか。言わずとも明らかであろう。今日では商店街アンソートメントを特に重視しなければならぬ。

同様に、商業の国民経済的評価は何でなされるものだろうか。産業構造比率、生産所得、就業人口など色色とあろうが、熊本の商業が、第二次産業にくらべて不均衡ではないかという見方と懸念があるのも事実だ。

しかし、その仕組みは熊本商大の長野教授のすぐれた研究によって既に明らかで、ここでは立入らない。ただ、十年前に、長野教授が、性急に新産都市計画による工業化をすすめるより、県経済に占める熊本市

の拠点性に着目して、既に集積のある熊本市の商業地域再開発を行うべきだと主張されたことを想起したい。

さて、最近、産業の国際比較が重視され、わが国の第三次産業のあるべき姿が模索されているが、低所得国の第三次産業が、高所得国のそれにくらべて必ずしも低くないこともたしかめられている。このことは、それらの国の商業が生業的に営まれていることを示唆している。

熊本の商業も生業的要素が大きいことが、統計の示す通りである。そして、生業的商業を政策対象としてとらえることがいかに困難であるかも明らかである。だが、生業的商業も一概にムダな存在とは言いきれぬ重要な機能も持っている。そして、残存利用の近代化という国の政策目標がある以上、むしろ、商業構造の上で積極的に位置づけてみる必要がある。たとえば、農業政策における兼業農家の位置づけが問題なように。

ところで、一代限りの商業機能も、過多早死ながら、マクロ的には、あたかも非連続性をもつがゆえに、不用意に人為的なものが加わることによって、かえって残存利用の価値までそこなう惧れがあるまいか。

熊本の商業、それも小売業のことを考える場合に、熊本人の気質もあわせ考えねばならない。小なりとも一國一城の主をもつて自ら任ずる孤高性、組織や管理制度になじまない非合理性などが、生業的商業のこよなき温床となっている。

商業の分野でも、最近一極分解現象が顕著にあらわれているが、この生業的商業はかえって強靱な存在を主張している

反面、昨年来の人員費の驚異的な高騰は、中間的(規模)商業の脆弱な体質に最もよく淘汰作用を及ぼし、没落するか、生業的商業へ退化するかの途を急がせる皮肉な問題状況さえ呈している。

この中間的商業の退行は、県経済の構造が高度化することによって、一段と進行するにちがいない。しかも、この類型が自然発生的に生成された商店街のなかに、最も多く存在していることが存外看過されている。

昨今大規模店舗の新規参入もあいついで、熊本の商業の近代化もそれらへの対応の形で徐々に動きだしている。一般に商業の近代化をはかりながら、流通コストの低減をすすめることは、必然的に商業の大規模化を導きます。かくて、商業は企業化を齎らし、ついには第三次産業の所得構成比を高めることは論をまたない。

大型商業を育成するか、生業的商業を助成するか、商業地域を再開発するか。政策効果よりみて、最も合理的な選択はどれであろうか。私は、長野教授の提案が実行されていたら、熊本の商業はうんと変わったものになっていたらと思う。

これまでの施策をみると、商業政策はもっぱら金融機関を通じて行い、金融措置にとどまっていたことを明らかにしなければいけない。農業における構造改善事業や、工業における用地への先行投資を見なれた目には、商業分野になせそれができないのか訝しく思われるので

ある。

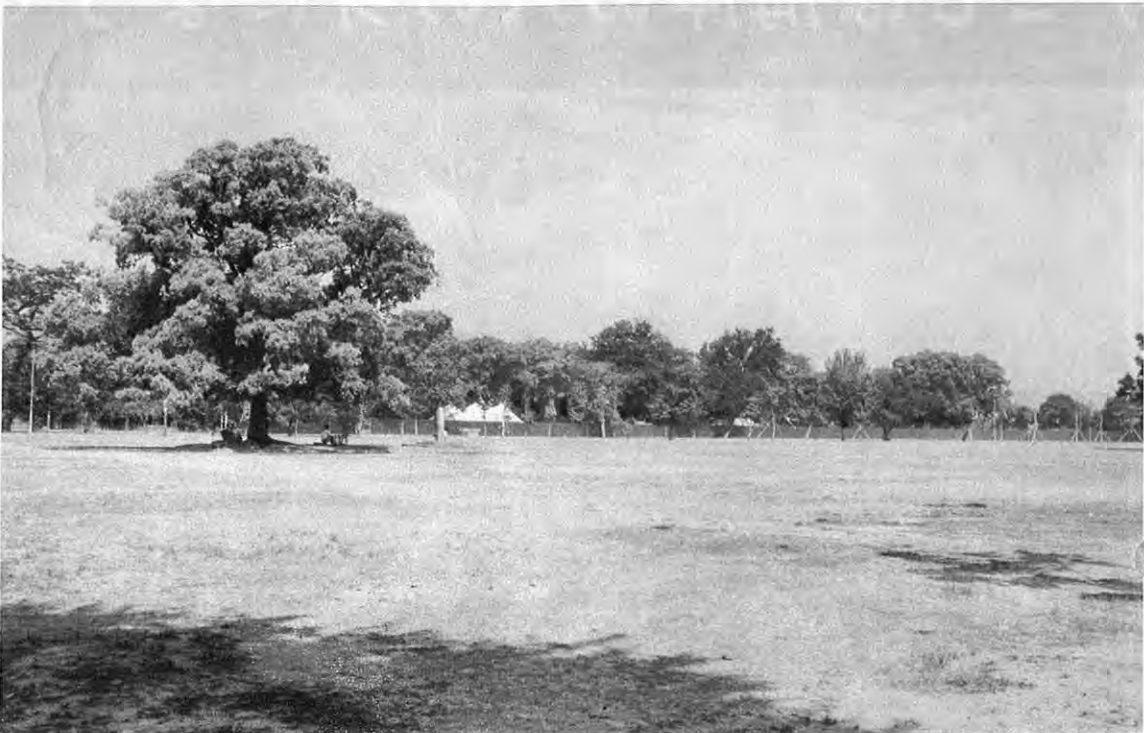
昭和四十七年三月、熊本地域商業近代化地域計画報告書が発表されて、既に二年を経過したが、報告の内容の前提条件をくつがえすような事態が急速に進行していることを思うと、覆水盆にかえらざる感が強くする。

商業の構造改善、基盤整備には、権利の調整、意志統一、それに商業空間の変化など、政策当局がたじろぐような難問が山積していることも明らかだが、都市機能の整備、生活空間の保全確保は今日の政策課題はなく、避けて通れぬ問題であろう。

私は県、市の施策が、折角立案された商業近代化の具体的プロジェクトに従って、政策手段を一日も早く選択され、これまでの金融措置に止らず、新たに財政支出を加えたポリシーミックスをぜひ商業分野にも果敢に発動してほしいと思う。そして、次の事項の具体化を希望したい。

- 一 これからの参入大型店には地域振興のために、使用資本又は収益に対して、一定比率の地元還元(外部経済の整備など)を行うことを協定する方案
- 二 生業的商業の計画的集中を誘導し、之に伴う店舗移動資金の融資を別枠で行う方案
- 三 商店街再開発には都市計画にもとづき、緩急順序を予め定め、地域住民の合意協力を得やすく配慮すると共に、権利変換方式はあくまで地元優先の原則を貫く開発方案

(金龍堂社長)



▲県立美術館建設地 森の中に建設される

## 県立美術館起工

熊本県立美術館の起工式が五月十七日、熊本城内二の丸で行われました。建築資材の高騰のため、予定価格で入札ができず、やっと一期工事が十億八千万円で着工できる運びとなりました。一期工事で建てられるのは、一万四千七百平方メートルの敷地に地上二階、地下一階の延べ六千六百平方メートルのうち、一部を除いた部分です。

完成は、来年八月で、五十一年三月開館の予定です。

この美術館は、地方公共団体の美術館のうちでも、兵庫、群馬、北九州市と共に全国でもトップクラスの規模で、その最大の特徴は、地下の装飾古墳室に展示される千金甲、チブサン、井寺古墳などの精巧なレプリカ(複製)です。

▼くわ入れの儀



▼設計者 前川國男氏(中央)



▶完成模型

